

夏の道具をさがそう！

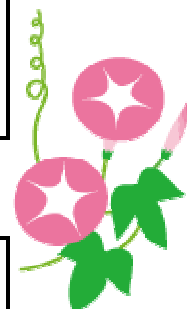
～回転ステージから「夏の道具」をさがして、マスに道具の名前と絵をかいてみよう～

★ **昭和10年代**

<虫よけの道具1>	<すずしさを感ずるもの1> ガラスのコップ	<夏の食べ物>
<虫よけの道具2>	<すずしさを感ずるもの3>  せんぷうき	<すずしさを感ずるもの2>
<夏用のめしびつ>	<夏のきもの>	<虫よけの道具3>

☆ **昭和30年代**

<虫よけの道具1>	<すずしさを感ずるもの1> かき氷のうつわ	<夏の食べ物>
<虫よけの道具2>	<すずしさを感ずるもの3>  せんぷうき	<すずしさを感ずるもの2>
<夏用のめしびつ>	<夏のふく>	<虫よけの道具3>



* * * ヒント * * *

1 「涼を感じさせる」ものって？

- ◎ 「涼しいな」「涼しそうだな」と感じさせる道具
- ・はだで感じる…風を送る道具、日よけの道具など
 - ・目で感じる…道具の「色」や「材料」に注目！
 - ・耳で感じる…すずやかな「音」を楽しむ道具は？



2 「虫よけの道具」も夏の道具？

暑くなるとハエやカが増えます。むかしは今よりも、生活環境の違い(衛生面、家の構造など)からハエやカも多く、虫よけの道具もいろいろ工夫がされていました。ハエやカによってバイキンが運ばれ、病気の原因にもなるため、虫よけの道具は夏の必需品です。

こうした道具は、殺虫剤の登場などでしだいに使われなくなりました。

3 「めしびつ」ってなに？

現在の「炊飯器」はご飯を炊いたら、そのまま保温もでき、置いておくことができます。しかし、炊いたご飯を保存するための「電子ジャー」(1965年)が登場する以前は、炊いたご飯を「めしびつ」に移しかえて保存しました。夏はご飯がいたみやすいため、「めしびつ」も風通しをよくするなどの工夫がされました。

◆ 「夏の道具」いくつか見つけたかな？

昭和 10 年代

道具の名前：扇風機、ガラスのコップ(切り子)、ハエ取りぼう(管型)、ハエ取り器(置き型)、ハエ取りリボン、ハエ帳、蚊遣豚、夏用めしびつの蓋、ゆかた、パナマ帽、うちわ、たらい、スイカ、ラムネ、トコロテン突き…など

昭和 30 年代

道具の名前：扇風機、かき氷の器、ハエ取りぼう(管型)、ハエ帳、蚊取り線香、夏用めしびつ(涼味めしびつ)、半そでワンピース、うちわ、風鈴、そうめん、麦茶、ラムネ…など

